

情 報 公 開 文 書

研究の名称	網膜下出血の視力予後予測因子についての後ろ向き観察研究
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院 眼科学 教授 林篤志
研究の概要	【研究対象者】 2013 年 1 月 1 日から 2028 年 6 月 30 日までの間に黄斑部を含む網膜下出血を みとめた症例のうち、1 か月以上富山大学附属病院で経過観察可能であった患 者さん。 【研究の目的・意義】 網膜下出血に対する治療方法として、硝子体手術、ガス硝子体注入による血 腫移動術の有効性が報告されています。組織型プラスミノゲンアクチベータ (tPA)を併用することによって、血腫移動の効率はさらに改善することが期待 されています。しかし、どのような症例にたいして、どの術式を選択すべき かについての臨床試験は不足しており、未だ明らかになっていません。本研 究では、富山大学附属病院で治療された患者さんの経過を検討し、術式によ る予後の違いを明らかにすることによって、より適した術式の選択を可能に することを目的としています。 【研究の方法】 患者さんの年齢、性別、発症から手術までの期間、術前視力、抗凝固薬内服 有無、血腫径、血腫高、中心窩網膜内出血有無、網膜色素上皮裂孔の grade と grade3 以上の部位（黄斑の 1 乳頭径以内又は以外）、術後視力、術後網膜 厚、術後瘢痕化有無とその大きさについて、電子カルテ情報および眼科外来 に設置されている検査機械に保存されている画像を取得し検討します。 【研究期間】 実施許可日 ～ 2028 年 6 月 30 日 【研究結果の公表の方法】 学会で報告したり、医学雑誌で発表します。
研究に用いる試料・情 報の項目と利用方法 (他機関への提供の有 無)	年齢、性別、発症から手術までの期間、術前視力、抗凝固薬内服有無、血腫 径、血腫高、中心窩網膜内出血有無、網膜色素上皮裂孔の grade と grade3 以 上の部位（黄斑の 1 乳頭径以内又は以外）、術後視力、術後網膜厚、術後瘢痕 化有無とその大きさについて、統計学的処理を行い検討します。(他機関へは 提供しません。)
研究に用いる試料・情 報を利用する機関及び 施設責任者氏名	富山大学附属病院、病院長、林篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び 知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を 開示いたします。
試料・情報の管理責任 者（研究主機関におけ る研究責任者氏名）	富山大学附属病院、眼科学、教授、林篤志

研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む) を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7363 E-mail ueda@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 眼科学、助教、コンソルボ上田朋子
---------------------------------	--